令和5年度 四万十森林管理署の重点施策

～　地域の林業成長産業化に向けた取組　～

令和５年４月

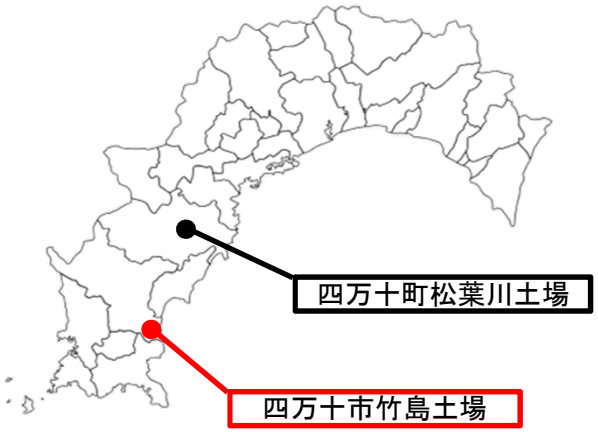
四万十森林管理署

① 木材の安定供給への取組

- 令和5年度の原木生産量66,500㎥を確保
- 四万十市竹島及び四万十町松葉川土場の中間土場を活用した**民有林と国有林の連携による国産材の安定供給を推進**

■ 生産事業現場の様子
（黒尊山国有林）

■ ストックヤード（土場）の整備箇所



■ 竹島土場
（四万十市竹島）

② 地域の安全・安心を守る災害・治山対策の強化

豪雨等により被災した荒廃山地の早期復旧及び緑の国土強靱化や既存施設の機能強化・長寿命化への取組を推進。

また、近年は大雨や短時間強雨の増加により、大規模、多発化している自然災害から地域の安全・安心を確保するため、本年度は9箇所で治山事業を実施予定。

■高岡郡津野町の災害現場

崩壊地現況（R3年）

不入山国有林復旧状況（R4年）

■高岡郡四万十町の災害現場

荒廃現況（R3年）

糀ヶ瀬山国有林復旧状況（R4年）

■令和5年度事業予定

	治山事業
予定箇所	上足川山（四万十市） 障子ヶ峠山（四万十町） 深谷灘山（中土佐町） 常泉畑山（四万十町） 大森山（三原村） 下大物川山（宿毛市） 尻高山（中土佐町） 黒尊山（四万十市） 釣石山（四万十町）
計	9箇所

※下線は令和5年度新規地区
※赤字は翌債繰越工事

③　市町村の林務行政への技術的支援

市町村の林務担当者を対象に、「**森林・林業セミナーin四万十**」を開催し、技術面の習得の他、情報交換を行うことで連携の強化を図り各市町村の林務担当者の負担軽減に繋げる。

■ 「第１回森林・林業セミナーin四万十」の開催（場所：三原村の国有林、内容：集材作業及び列状間伐）

■ 「第２回森林・林業セミナーin四万十」の開催（場所：佐竹木材（四万十市）、内容：製材方法等）

④　地域の森林・林業を担う人材育成

林業技術に関する「**現地検討会**」や「**ドローン講習会**」を開催し、林業事業体等の技術力の向上や担い手の育成を推進

■　令和5年度現地検討会の開催計画

予定月	検討会テーマ	場所
10月下旬	上部ワイヤロープ式ネット施工現地実演会	未定

※　上記は、現地事情や事業進捗状況等により追加や変更する場合があります。

■　現地検討会・ドローン講習会等の様子

ナラ枯れ被害状況現地検討会（土佐清水市）

ドローン講習会（幡多農業高校）

地上3Dレーザの講習会（幡多農業高校）

⑤ 林業コスト削減対策

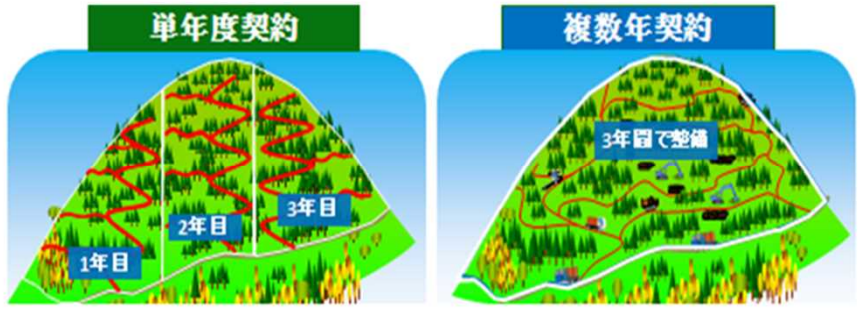
- **下刈りの省力化等の「新しい林業」に向けた取組を推進**
- **樹木採取権制度の取組（立木を一定期間、安定的に伐採できる権利）**
- **一貫作業システム（伐採・搬出から植栽の作業を一括契約）を実施（立木販売と造林の混合契約）**
- **複数年契約（伐採・搬出等の作業を複数年（3年以内）で契約）を実施**

■令和5年度　複数年契約実施予定地区等

複数年契約	樹木採取権	混合契約
・梼原町　久保谷山（104ha　R4～R6年度） ・四万十町　橋川原山（83ha　R4～R6年度） ・四万十市　二ノ又山（91ha　R5～R7年度	・四万十町　相ノ峠山　（約3.6ha　R4年度～） ・中土佐町　下ル川山　（約5.0ha　R4年度～） ・四万十町　四十畑山　（約4.0ha　R5年度～） ・中土佐町　下ル川山　（約5.5ha　R5年度～）	・四万十市　掃地山　（5.63ha　R4年度分） ・四万十市　掃地山　（12.81ha　R5年度分） ・四万十市　唐谷山　（9.14ha　R5年度分）

■一貫作業システムと従来システム

■複数年契約による森林整備



⑥ ドローン・ICTの新技術の積極導入

- ドローンを8台（令和4年度に2台新規購入）保有し、本署・森林事務所へ配備することで、森林資源調査の他、山地災害発生時の対応やシカ被害対策等への積極的な活用を実施
- 電子輪尺及び電子輪尺対応立木調査データ収集アプリを活用した森林資源調査の実証試験を実施
- 地上型3Dレーザースキャナー（OWL（アウル））を活用した森林資源調査を行うことで、調査時間と労力削減を図る。

■山地災害の状況を確認

■林道災害の状況を確認

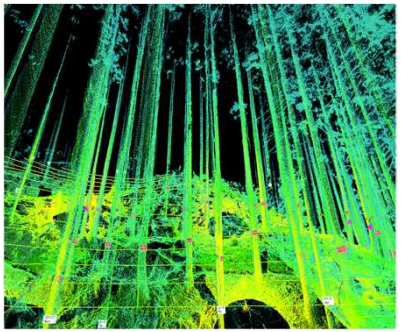
■電子輪尺対応立木調査データ収集アプリによる森林資源調査

【電子輪尺等の特徴】
樹種及び径級ごとに本数をカウントし、データ取得と同時に材積を計算
【メリット】
①測定＆野帳記録を1人で完結
②現場で材積を把握
③読み間違い、聞き間違い、書き間違い等のヒューマンエラーを防止
④事務所でのデータ入力が不要

■シカネットの点検

■事業の進捗状況を確認

■地上3Dレーザ（OWL）を活用した立木調査

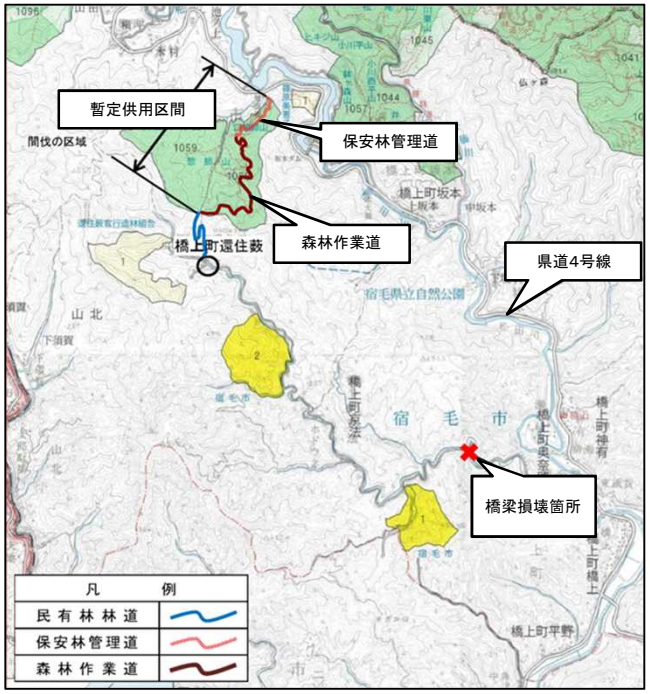


【OWLの特徴】
① レーザー光を360度射出しながらレーザースキャナーを180度回転させ、周辺に存在する物体の形状を把握する。（約4万3千点/秒）
② 400㎡（20m×20m）の区域を1人で10分程度で精密に調査できる。
③ 3次元点群画像により、林内をリアルに再現。計測者の個人差なしに大量の森林データを短時間で取得可能

⑦ 地域の課題への対応

- 自然災害発生時に迂回路として国有林林道等の活用
- 入野松原（黒潮町）の保全（松くい虫防除対策）
- 「三原米の里多様な森林づくり活動」の推進
- 「土佐備長炭ウバメガシ資源確保プロジェクト」の推進

■国有林林道等を迂回路として利用（宿毛市）



【経緯】
平成30年7月豪雨の際に、宿毛市の市道が橋梁の橋脚の沈下により通行止めとなり、孤立地区が発生した。
このことから、宿毛市と四万十森林管理署が連携し、迂回路として、国有林を縦断する森林作業道と保安林管理道を整備、また 宿毛市は、民有林内の森林作業道を整備したところである。
このことにより、国有林・民有林双方の森林作業道を経由して、一般車両でアクセスすることが可能となった。
今後、管内の自然災害時に孤立状態が発生する恐れがある地区において、迂回路活用の可能性について、関係自治体と検討を進めていきたい考えである。

■入野松原の松くい虫防除（黒潮町）

【特徴】
黒潮町の入野松原を保全することを目的に、高知県、黒潮町、四万十森林管理署が連携し、毎年5～6月に薬剤の地上散布（2回）実施。更には、1月に樹幹注入を行い、松くい虫防除対策に努めているところである。

■三原村の里多様な森林づくり活動（三原村）

【特徴】
多様な森林づくりを進める上での課題を整理することで改善策等の検討を行い、「多様な森林づくり“見える化プロジェクト”」を通じ、多様な森林づくりを進めてまいります。